

人面付土器
いづみ
 修復中!
 最終回



「いづみ」の修復完了!

9月号から7回の連載でお伝えしてきた、泉坂下遺跡より出土した人面付土器「いづみ」の修復とレプリカ作成の工程も、今回が最終回。皆さんに、とっておきのお知らせとともにご報告します。

本物「いづみ」は頭部と胴部がやつと接合。すき間に補強のためエポキシ樹脂を充填し、完全に固まるのを待って、他の充填した部分と同様に補刻を行いました(写真1)。引き続き行った充填部への補彩は、骨董品などとは違い、補修部分であることがはっきりと分かるように、本物と同系の薄い色を用います。照明や日光による色あせを避けるために、塗料とするのは耐光性に優れたアクリル絵の具。本物を汚さないよう、細筆で慎重に彩色し、「いづみ」の修復は完了しました(写真2)。



将来を見据えた
 文化財の修復

まさに「こわれもの」だった修復前の姿から一変、「いづみ」は「しっかりもの」に生まれ変わりました。しかし、文化財の修復は、単に「しっ

かり」「がちり」ではいけません。長い間には、不慮の災害による破損や劣化等によって再び修復する可能性もあり、割れ口を強化するために塗った樹脂や接着剤には、薬剤で溶かすことのできるものを使用するなど、将来を見据えた処置が施されているのです。



レプリカも
 もうすぐ完成

前回お伝えした気の遠くなるようなレプリカの補刻は、20日間を費やして終了。2月中旬現在、レプリカも頭部と胴部が接合されて、アクリル絵の具による彩色作業が進行中です(写真3)。本物と見比べながら、目元や顎に残っている赤いベンガラはもちろん、補修した部分も忠実に再現していきます。



「いづみ」文化庁主催
 「列島展」で全国デビュー

文化庁では、毎年、全国で発掘された貴重な考古資料を一般公開する「発掘された日本列島」展を主催し、東京都立江戸東京博物館を皮切りに、国内各地の博物館を巡回させています。この平成24年度「列島展」に、「いづみ」を含む泉坂下遺跡の遺物の出品が決定しました。すでに、考古学の弥生時代の概説書表紙にも採用されている「いづみ」は、各会場で注目され、常陸大宮市の再葬墓遺跡は、全国的に有名となるこ

とでしょう。



本物とレプリカ
 お披露目します

「いづみ」の全国行脚の前に、資料館では、3月27日より、本物とレプリカを並べて展示します。修復等の工程をパネル展示するほか、府中工房 堀江武史さんのご好意により、レプリカ作成に使用した型も展示します。どちらが本物か、投票も実施。さて、本物とレプリカ、皆さんは見分けがつくでしょうか?

写真2



▲「いづみ」頭部・胴部接合部補彩完了

写真1

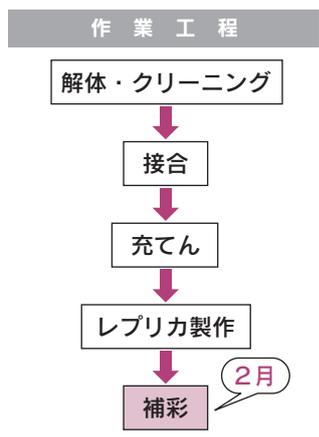


▲「いづみ」頭部・胴部接合完了

写真3



▲レプリカ彩色状況



写真提供・取材協力：府中工房 堀江武史氏

※この修復事業には(財)朝日新聞文化財団より助成を受けています

歴史民俗資料館 ☎52-11450